

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月23日

【評価実施概要】

事業所番号	3474800376		
法人名	社会福祉法人 総領福祉会		
事業所名	グループホーム みら屋		
所在地 (電話番号)	広島県三次市三良坂町三良坂1789-2 (電 話) 0824-44-3008		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆見町一丁目6-29		
訪問調査日	平成19年10月16日	評価確定日	平成19年11月12日

【情報提供票より】(19年9月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 8.6 人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	木造り	
	2 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(9月26日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.8 歳	最低 80 歳	最高 91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高場クリニック・市立三次中央病院・備北なつつか病院・市立湯が丘病院
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの建物は、民家改築型で“和”を強調した設計となっている。ホームでは、利用者と職員が「もっと、ずっとこの町が好き」「あなたの笑顔とパワーをお待ちしています」を共有・共感するためにソフトケアに心がけ支援を行っている。建物の全体としては、落ち着いた雰囲気であり、入居者も我が家のような生活をされていた。特徴としては、職員は入居者の個々の状況を常に把握されており、ケアの原点であるように、職員が入居者に寄り添い、そして育み、その“人”らしさを大切にしている。入居者には個々の役割があり、日々充実感にあふれた生活を送られている。今後も、ホームは地域の拠点となるよう、近隣との協力体制作りを今以上に深めることが推進されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善点については、ホームなりに苦慮されている部分でもあったが、日々を重ねるにつれて現在では解消されてきている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ホーム側は評価の重要さを認識しており、今後も、グループホームの役割やホームの理念を唱和し自己点検に努めることを期待する。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	定期的開催されており、建設的な意見などを取り入れた話し合いとなっている。今後も運営推進会議の意義や目的を更に明確にし、より良い話し合いとなることを望む。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族への連絡などはきめ細かく行い、家族とホームとの関係がより良く行われていることが伺われた。今後も、家族などの意見などを可能な限り取り入れてより良いホームに作りあげられることを期待する。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	前回の評価でも改善点となっていたようであったが、これを機会に職員も意識を変えている。ホームは地域の拠点となり、地域にあっての開かれた運営という目的で、今後も積極的に地域との連携を常に図られる事を期待する。

社団法人広島県シルバーサービス振興会

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ケアの視点に立ちながら、入居者が日々の生活に満足していただくための基本理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のミーティングなどを通じて理念の共有をしている。	○	今後も、自己点検という目的でも、継続されることを望む。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事で、お祭りやとんど・運動会への参加をしている。	○	今後も地域の一員として、積極的に地域活動に参加され、また近隣との付き合いを深め、地域密着型としての機能を果たすことを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の大切さを認識されており、運営推進会議でも報告し改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者からの意見や思いも、会議のなかに取り入れサービス改善あるいは向上に努めている。	○	今後も事業所の活動内容などをもっと明示し、関係者の助言などを得ながらサービスの確保を図る必要があるので、運営推進会議の都度、意義やその目的をもっと明確にし、今まで以上により良い会議となるよう期待する。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	広報誌が出来た時などには、市役所の支所や市庁に届けるなどして担当者と連携をし、情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的な電話連絡や家族の来所時には、アルバムなどを見て頂きながら近況報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族の代表も出席して頂き、要望などもホーム側に十分伝わるシステムが構築されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人全体での人事考課を行い異動があるが、この際には常にホーム側としては、働きやすい環境づくりに取り組み、また異動も必要最小限に抑える努力がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修には積極的に取り組まれている体制であり、職員の更なる質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症介護実習研修の実習を積極的に行っておりこの手法としては、法人全体(約160名)の各事業所でそれぞれリレー研修を行い、更なるサービス向上に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に際しては、事前に面接やホームなどを見学して頂き、利用者や家族の納得の上で入居を勧めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりの人権を尊重し、ホームの理念である「いっしょに笑い、楽しい一日ありがとう」をモットーに支援されているのが伺えた。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴を確認しながら、日々の暮らしの中でも利用者の希望や意向を把握し、これらをケアプランに反映され支援されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人ひとりの入居者には担当職員を配置し、担当者がきっちりとアセスメントを行い、これらにより具体的な介護計画を作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の申し送りやミーティングなどで、必要に応じて意見交換し、家族に相談しながら計画・見直しをしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	大規模な組織である法人事業所の機能を十分活かしてながら、一人ひとりのニーズに沿った支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の往診や、利用者・家族の希望する医療機関での受診を受けるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについては、入居時に本人や家族の意向を確認している。今後の対応については、これらを基本として方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者個々の状況は絶えず把握され、目配り・声配り・気配り型の方法で支援されているのが伺えた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースを大切に支援をされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の段階から利用者の希望を尋ね、これらは食事の準備や後片付けも一緒に行っている。入居者代表者が食前・食後に必ず「頂きます・ご馳走様」と感謝の気持ちを込め挨拶をされ美味しく頂いている。職員も同席しながら楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の個々の状況に見合った入浴支援されている。これまでの習慣とその時の入居者の個々の状況に応じた入浴支援の仕方がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々の特長を把握しながら、これらを活かした上での支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来るだけ毎日の散歩や買い物に出掛けるよう心掛け、また実施支援も行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけない方針を職員は理解し、ケアに取り組んでいる。また、玄関の戸に開けたら音がするように工夫したりして、常に職員が目配り・心配りをするよう心がけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成したり、年2回避難訓練を実施している。	○	災害時にはホームは地域の拠点となるため、災害対策への意識づけが必要不可欠である。今後、近隣との協力体制作りを期待する。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の身長・BMI・体重・腹囲と計測され、水分摂取量も記録されている。個々の状況に見合った栄養摂取をされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体が「和」を強調した設計となっているため、入居者一人ひとりが我が家のように生活されている様子が伺えた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで自宅で使っていた小物などは、自由に持ち込まれており、新規入居時の際に不応をおこさないように配慮されている。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームみら屋

評価年月日 2007 年 9 月 10 日

記入年月日 2007 年 9 月 10 日

記入者 職 管理者 氏名 渡辺 典子

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	-----	---------------------------------	---------------------	----------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域の住民の思いを含めた開設当初からの理念を、毎年事業計画やパンフレットにも掲載し、少しでも実現できるように取り組んでいる。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	日常の場面、申し送り、ミーティング等を通じて話をしながら取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	取り組んではいるが、あまり積極的ではない。	○	定期的にホーム便りを出したり、地域に積極的に出て説明会や認知症に関する勉強会など開催していく。

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。	毎日のように日課としている散歩や買い物に出かけたとき、声をかけたりしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の行事（お祭りやとんど、運動会など）に参加したり、中学生の職場体験学習を受け入れている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	ミーティングなどで話し合いは行っているが、取り組みはまだできていない。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価の結果を職員にはミーティング等で報告、運営推進会議でも報告し改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者からの意見や思いも、会議の中で述べていただき、サービス向上に活かしている。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	広報紙ができた時など、市役所（支所）にもっていき、担当課や担当者と話をすることがある。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	法人内の研修や外部の研修等で学ぶようにしているが、まだまだ不十分である。	○	研修会に参加したり、ミーティング等でも話し合いを持つようにし、理解を深めていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人内の研修や外部の研修等で学ぶようにしているが、まだまだ不十分である。	○	研修会に参加したり、ミーティング・日々の申し送りでも話し合うなどして、虐待の防止の徹底に努める。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	-----	---------------------------------	---------------------	----------------------------------

4 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書・重要事項説明書に明記し、入居時に説明し同意を得ている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	運営推進会議に利用者の代表として出席して意見を述べてもらったり、日常の場面でも耳を傾けるよう努力している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	定期的に連絡したり、来所時の声かけや個別にアルバムをつくり、居室に置いていつでも見ていただけるようにしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進委員会に家族の代表として出席していただき、意見を述べてもらったり、来所時には声かけをするよう取り組んでいる。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年2回人事考課を実施し、その際個人面談も行いスタッフの思いや意見を聞けるようにしている。また、日々の申し送りやミーティング等でも意見交換している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務表を作成し、場合によっては時間を変更する等、調整している。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	法人全体で人事考課を行うなど、働きやすい環境づくりに取り組み、異動後もグループホームの運営に関わってもらうなど、工夫している。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	必要に応じて外部の研修に参加している。法人全体で研修体系があり、新人研修・リレー研修など研修の機会を確保している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	認知症実践研修の実習の受け入れを積極的に行い、スタッフが同業者と交流する機会をもっている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	懇親会等を開催したり、管理者が職員の個人面接を行い、意見を聞けるよう取り組んでいる。また、法人全体で人事考課制度を導入し年2回行っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	法人全体で人事考課制度を導入し年2回行っており、個々の努力や実績が反映されるように努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入居前から本人と事前面接を行ったり、入居後も新しい環境に慣れていただけるように、声かけをしたり傾聴に取り組んでいる。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前から事前面談を行ったり、電話で状況を確認したり、入居後も新しい環境に慣れていただけよう、声かけや状況報告をしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	現在の状況や本人や家族の思いを聴き、状況に応じて他のサービス利用についても情報提供し、他のサービス機関と連携をとっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にながら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居に際しては事前面談を行い本人の状況をよく把握し、初期の段階では特に気をつけて声かけし、職員が間に入って他の利用者とコミュニケーションを取れるようにしている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「いっしょに大笑い、楽しい一日ありがとう」をモットーに、昔ながらの調理法を教えていただいたり、昔話を聞いたり、歌を習ったり、いっしょに過ごす時間を大切にしている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居中のご本人の様子をお話したり、あるいは入居前の様子を伺ったりしながら、ご本人が安心して生活していただけるように協力し合っている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	ご本人や家族の思いを大切にし、外出・外泊等の支援を行ったり、普段の様子を細かに伝えたりするように努めている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	外出や外泊の支援をしたり、入居前から続けられている文化活動への参加を支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者の間に職員が入ってコミュニケーションをとりやすくしたり、朝の起床の声かけや入浴の声かけを世話役の入居者にしてもらったりしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	状況に応じて家族へ連絡したり、他機関との連携をはかるようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前の事前面接や、入居後にも今までの生活歴を尋ねたりしながら、ご本人の今までの暮らし方が継続できるよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の事前面接や、入居後にも今までの生活歴を尋ねたりしながら、ご本人の今までの暮らし方が継続できるよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の申し送りや記録等を通じて現状を把握し、安心して過ごしていただけるよう支援している。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	一人一人の入居者に担当の職員をつけ、その職員が中心となってアセスメントも行い、具体的な計画を作成している。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	日々の申し送りやミーティング等で、必要に応じて意見交換し、家族に相談しながら計画を作成している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	「暮らしのアセスメントシート」を作成し、日々の状態が具体的にわかりやすく記入できるように工夫している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	法人内の他のサービスも紹介したり、利用したりしながら、本人らしい生活ができるように努めている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	必要に応じて協力しながら支援を行っているが、まだまだ不十分である。	○	地域との協力関係が深まるように、運営推進会議等で協議しながら取り組んでいく。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要に応じて連絡したり相談することはあるが、十分に支援できていない。	○	グループホームに入居していても、必要に応じて地域の他のサービスが利用できるよう支援していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じて連絡することはあるが、十分に協働できているとは言えない。	○	定期的に連絡や情報交換をするなど取り組んでいく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	近隣にかかりつけ医（週 1 回往診あり）があり、また希望に応じて他の医療機関でも診察を受けられるよう支援している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	入居者の状況によってはこちらから受診し、専門医から助言をもらっている。日常的にはかかりつけ医に相談している。	○	日常的に相談できる専門医の確保に努める。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	職員の中に看護師を配置し、日常の健康管理が行えるようにしており、近隣の看護師のOBにも協力を依頼している。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	状態に応じて家族・医療機関と相談を行いながら支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	入居時にご本人や家族の意向を確認し、状況に応じて話し合いや相談を繰り返しているが十分ではない。	○	重要事項説明書に明記したり、マニュアルを作成する。またミーティングで情報共有できるよう取り組んでいく。
48	○重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	状況に応じてかかりつけ医等と相談しながら支援しているが、十分ではない。	○	重要事項説明書に明記したり、マニュアルを作成する。またミーティングで情報共有できるよう取り組んでいく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	事前に関係者間で話し合いや情報交換を行い安心して新しい環境に慣れただけよう努めている。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	できる限り利用者の方の目線に立って言葉かけや対応をするようにしている。記録等も鍵のかかる書庫へ保管している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	職員が選択するのではなく入居者に選択していただく場面を作ったり、「○○して下さいますか？」と依頼する、言葉かけする等、自分で決めて暮せるよう支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者一人ひとりのペースで生活できるように、外出や散歩も希望を聞きながら支援を行っている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	ご本人の希望を聞きながら、なじみの理美容院へ出かけられたり、職員が対応したり家族が行ったりしている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立の段階から利用者の希望を尋ね、食事の準備、後片付けも一緒に行う。職員も一緒に同じテーブルにつき食事を楽しんでいる		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居者の希望を聞きながら、好みのものを楽しめるよう声かけをしている。また10時・3時にはいくつかのメニューの中から飲み物を選んでいただいている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄の声かけや介助、失禁等の対応では本人が不安を感じないように、また他の入居者に配慮しながら行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の希望を聞きながら、昼間・夜間の対応ができるように支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	それぞれの居室でゆっくり休んでいただいたり、縁側や和室・共用のフロア(食堂)にもソファをおき、ゆったり座れる空間作りに取り組んでいる。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	入居前に老人会の会長などの役職をされていた入居者の方に、代表としてあいさつをしてもらったり、その他家事や畑を手伝ってもらっている。季節感のあるお手伝い(干し柿作りや栗の皮むきなど)も楽しんでもらっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々の希望に応じて金銭を所持していただいており、外出時などお金が使えるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	できるだけ毎日散歩や買い物に出かけるように、支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	要望があれば随時対応し、その季節ごとにお花見やドライブ・美術館めぐりなどを計画し、外出の機会を増やすよう心がけている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をかけたいという希望があればかけてもらい、また手紙を書くことを勧めて書いてもらっている。はがき・便箋・封筒など準備している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	個々の居室でゆっくり過ごしてもらっている。必ずお茶等を持っていき声かけをするようにしている。宿泊も自由にできるよう寝具等も準備している。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員の業務分担の中で、身体拘束係をつくり研修会に参加したりミーティングで話し合いながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	さらに理解が深まるように、定期的に勉強会等行っていく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	朝夕の施錠時間を決め、日中はできるだけ開放している。玄関の戸に開けたら音がするようにしたり、職員が目配り心配りをするよう心がけている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	食堂のイスやソファで記録をとったり、定期的に訪室しながら見守りができるよう努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	必要に応じて保管場所をかえたり、その物品に代わるものを準備したりして工夫している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	法人全体でもマニュアルを作成し取り組んでいる。またヒヤリハットレポートを使用し事故防止に取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	法人全体でマニュアルを作成し、研修会等でも勉強しているがまだまだ不十分である。	○	すべての職員が定期的に訓練できるよう、年間計画の中で取り組んでいく。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルを作成したり、年 2 回避難訓練を行っているが十分ではない。	○	地域の人々からも協力が得られるような働きかけを行っていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	個々の状況や変化に応じて、状況を家族に報告し対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝バイタルチェックをし、職員が出勤したときには必ず一人一人に声をかけてあいさつし、体調の変化や表情の変化などに注意している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人一人の服薬に関して、用法・用量・目的・副作用が分る表を作成し周知を図り、確実に服用できるよう支援している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	できるだけ薬に頼らないようにセンナ茶を服用してもらったり、おやつにヨーグルト・牛乳・果物・寒天を使用するなど工夫し、水分摂取にも気を配っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の歯みがきの声かけ、介助を行っている。定期的に義歯をポリデント洗浄したり、必要に応じて歯科受診もしている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事はホームで手作りしており，一人一人の状態に応じた調理方法で提供している。水分も3度の食事以外にも摂取していただけるよう声かけしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	法人全体でマニュアルを作成し予防に取り組んでいる。 手洗い・うがいも励行し予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	独自の衛生マニュアルを作成し，調理器具等の消毒を行い定期的に冷蔵庫・食品庫の整理をしている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関廻りの建物が民家を移築した物になっており，鉢植えを並べたり，木の温もりのある表札をかけたりしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関や共用の和室が昔ながらの民家を移築した物になっており，懐かしい雰囲気がある。花を生けたりのれんをかけたり，空間作りに取り組んでいる。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファやベンチ、いすなどを共用空間や廊下に置き、自分の好きな場所で過ごせるようにしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時にご家族に働きかけ、使い慣れた家具や生活用品を持ち込んでいただきその人らしい部屋作りに取り組んでいる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	時間を決めて1日3回は換気し、食堂には温度計を設置して温度調整や空調に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各要所へ手すりを設置し、玄関にはイスを置いて靴を安全にはいたりできるように工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	手作りの日替わりカレンダーを食堂へ貼ったり、居室の入り口にはそれぞれの花を飾ったり、トイレには大きく赤字で「便所」と表示している。		
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ホームのすぐ前には畑もあり、畑作り等も楽しめる。洗濯物も入居者の方と一緒に干せるようにホーム内にも物干し場を設置している。		